

平成 22 年度通常（第 2 回）理事会議事録

日 時： 平成 23 年 2 月 19 日（土） 11：00～15：30

場 所： 東京夢の島マリーナ 2 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

山崎達光、河野博文、秋山雄治、西岡一正、植松眞、前田彰一、青山篤、児玉萬平、斎藤涉、鈴木國央、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄、倭千鶴子、庄司一夫、豊伸吾（委任：庄司一夫）、小山利男、外山昌一、柴沼克己、坂谷定生、山下記誉、吉田豊、宮崎史康、奥村文浩、中村公俊、吉留容子、金井寿雄（委任：山田敏雄）

以上 27 名、内委任状 2 名

出席監事：高木伸学、浪川宏、栗原博

以上 3 名

オブザーバー：黒川重男レース委員長、大村雅一ルール副委員長、戸張房子国際委員長、大坪明外洋安全委員長

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 27 名（内、委任状 2 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 28 条に基づいて、山崎達光会長が議長となり、平成 22 年度通常（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、倭千鶴子、小山利男の両理事が任命された。

山崎会長から、平成 23 年度 JSAF 新体制を喜びたい。本理事会に提出された重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

<審議事項>

1) 平成 22 年度第 2 次補正予算（案）

斎藤理事から資料に基づき、平成 22 年度第 2 次補正予算（案）について説明があった。一般会計は、平成 22 年度 1 次補正予算策定後に確定した収支および見込金額が変更となる収支を反映するため、2 次補正予算を策定した。事業収入は、160,282 千円（対 1 次補正予算比 13,724 千円増）、事業活動支出は 154,904 千円（同 14,600 千円増）、当期収支差額は 1,878 千円（同 876 千円減）。対 1 次補正予算からの主な変更点は、①協賛金収入（日建レンタコム）及び同支出が確定したため、新たに 14,000 千円増計上

した。②ホームページ管理費、メンバー管理費などが50万円増加見込みとなった。

オリンピック特別会計は、平成22年度1次補正予算策定後に確定した事業収支を反映するため、2次補正予算を策定した。事業収入は、188,309千円（対1次補正予算比6,450千円増）、事業活動支出は196,154千円（同5,615千円増）、当期収支差額は5,998円とした。1次補正予算からの主な変更点は、①ロンドンオリンピック関係でスリーボンド社などから寄付があり、免税募金繰入金が増額があった。②JOC委託費のチーム派遣事業費増401万円、スポ振重点事業の事業費増135万円など、事業費支出が5,815千円の増加見込となった。

免税募金特別会計は、ロンドンオリンピック関係のスリーボンド社などからの免税募金収入が増加し、事業収入合計34,210千円を計上したとの発言があった。

承認された。

2) 平成23年度事業計画（案）

前田専務理事から資料に基づき、平成23年度事業計画（案）について説明があった。

平成23年度連盟実行計画と基本方針は、①全般は、セーリングスポーツはジュニアからシニアまで、またディンギー・ウインドサーフィンから大型艇まで、一層シームレスなスポーツになりつつあり、この動きを進める。ここ4年間基本としてきた普及・文化・勝利の3本柱を継承するとともに、それぞれの活動をさらに発展させるべく取組む。②普及は、セーリング拠点の増大と指導者の確保、ジュニアセーラーのセーリング継続のための環境づくりが必要である。ジュニアアカデミー委員会、ジュニアユース育成強化委員会、また国体・指導者・普及・レディースのそれぞれの委員会の活動を活性化させる。③組織は、数年前よりJSAFの財政健全化に取り組み、会員増強を含めたJSAF組織の基盤づくりを行ってきた。本年度は公益法人改革に伴う新公益法人への移行が大きな課題となっており、総務・財政委員会また公益法人移行検討(申請)プロジェクトで鋭意検討している。JSAF組織を確固としたものにするよう心掛ける。④大型艇は、沖縄レースの復活で外洋関係者の努力が徐々に結果を出してきている。外洋総務・外洋計測・外洋安全委員会を通して、多くのオーナーの方々にもっと楽しんでいただくとともに、JSAF活動に関心を寄せていただけるよう努力する。将来の挑戦に向けたアメリカズカップ委員会も活動する。⑤強化は、2年を切ったロンドンオリンピックに対し、できるだけ多くの出場枠を確保するとともに、再びメダルの獲得を目指す。強化活動としてオリンピック特別委員会を通して選手・チームのバックアップを行う。また、2016年オリンピック艇種470級男女の採用に向けて働きかける。⑥国際化は、JSAF活動国際的に広げていきたい。2016東京オリンピック招致ではISAFやIOCの視察に対応するなど貴重な経験を積むことができた。オリンピック招致委員会では2020オリンピック招致に向け積極的に活動する。⑦基盤確立は、セーリング競技の基盤となるルール・レース・ODC計測の各委員会は、毎年充実した取組みが行われている。一方、セーリ

ング文化を支える広報・事業開発・環境委員会を束ねる事業委員会の活動も活性化してきた。またセーラーをサポートする医事・科学委員会やドーピング裁定委員会の活動も行っていく。JSAF 活動の基礎は、これらの委員会も含めたさまざまな委員会の現場力にあると考えている。また JSAF の足腰の強さという意味では改めて会員増強に取り組みねばならないとの発言があった。

宮崎理事から、ボルボオーシャンレースの動向をご説明いただきたいとの質問があった。

植松副会長から、最低予算 18 億円かかることで、スポンサー獲得が難航している。各理事の情報をお願いしたいとの発言があった。

承認された。

3) 平成 23 年度事業予算 (案)

斎藤理事から資料に基づき、平成 23 年度事業予算 (案) について説明があった。

一般会計事業収入は、129,547 千円 (対 H22 年度 2 次補正予算案比 30,735 千円減)、事業支出は 126,658 千円 (同 28,246 千円減)、当期収支差額は 389 千円 (同 1,489 千円減) とした。平成 22 年度 2 次補正予算案との比較において、主な変更点は、①総務委員会の協賛金収支 (日建レンタコム分) を収支とも 14,000 千円減免した。②財政委員会の経理要員雇用費 1,200 千円を新規計上した。③事業委員会のモバイル端末代金収支は、平成 23 年 5 月までの契約のため、384 万円 (192 万円×2 ヶ月) を計上した。④レース委員会 ARO などの講習会収入および交通費・資料作成費などを計上した。⑤ワンデザイン計測委員会の IHC ステッカー収支及び IM セミナー費用等を新規計上した。⑥公益法人プロジェクト関係費用は計上した。

オリンピック特別会計は、214,335 千円 (対今年度第 2 次補正予算案比 26,026 千円増)、事業支出は 198,754 千円 (同 2,599 千円増)、当期収支差額は 13,081 千円 (同 22,755 千円増) とした。平成 22 年度 2 次補正予算案との比較において、主な変更点は、①JOC 委託金、スポ振助成金等の増額が見込まれ、それに伴う負担金収入も増額計上した。なお、申請ベースで計上しているため、認定結果によって変動する可能性が大きい。

免税募金特別会計は、寄付金等の見込額 34,210 千円を計上した。環境委員会特別会計は、寄付金等の見込額 3,756 千円を計上したとの発言があった。

承認された。

4) 評議員変更について

前田専務理事より資料に基づき、京都府セーリング連盟の武市進作評議員から、坂文彦新評議員に変更、東京都ヨット連盟の鈴木修評議員から、落合光博新評議員に変更されたとの説明があった。

承認された。

5) 公益法人移行プロジェクト定款（案）

庄司理事から資料に基づき、公益法人移行プロジェクトについて説明があった。

平成 23 年度は公益法人移行申請の年になる。公益法人移行申請スケジュールは、3 月評議員会で答申書承認、6 月評議員会で評議員選定委員会設置承認、10 月臨時評議員会で公益認定申請書承認及び新評議員承認、来年 3 月公益法人認定を確認した。

評議員の選定はあくまで「評議員選定委員会」の権限である。評議員会への委任出席が認められないことを考慮して、定数ならびに定数の上下限值(37～49 名)を設定した。理事会が「評議員選定委員会」に参考として提出する「候補者推薦名簿」は、各水域からの推薦をベースに、ケース 3 競技人口比配分 49 名として継続検討している。今理事会では 3 月評議員会へ提案する公益財団法人日本セーリング連盟定款（案）の中で重要なポイントである第 3 章第 11 条評議員の定数に絞って審議していただきたいとの発言があった。

柴沼理事から資料に基づき、評議員定数ケース検討に係わるプロジェクト案の修正について提案があった。各水域合計評議員数を 40 名に固定した場合の各水域の評議員数をドント方式に基づき修正案 4 パターンとした。修正案を検討いただき、評議員会へお計りいただきたいとの発言があった。

山下理事から資料(近北水域：京都)に基づき、新評議員選出試算に対する意見について提案があった。具体的配分方法は、現状選出実態から、総数削減のためエリア単位制とすることに際して、エリア単位に基礎配分 1 名制度を適用し残余数をエリアメンバー数比例配分することが望ましい。①評議員総数を 49 名とする。②エリア単位及び階層別団体単位に基礎配分 1 名（14 名）。③有識者枠に複数 3 名。④1・2 の配分残数 32 名をエリア単位のメンバー比率で算出し加算するとの発言があった。

倭理事から、評議員選出に際し、女性評議員を記載いただきたいとの発言があった。

柴沼理事から、女性評議員登用について、ISAF 同様、運用で細則を決めることが必要であるとの発言があった。

庄司理事から、今理事会では 3 月評議員会へ提案する公益財団法人日本セーリング連盟定款（案）を評議員の定数ならびに定数上下限值を決定することにある。評議員割当数は説明材料の理事会内部案であるとの発言があった。

秋山副会長から、評議員選定委員会で最終決定するために、選択肢が必要なのではないかと発言があった。

庄司理事から、内閣府からは理事会からの推薦ではなく、評議員選定委員会の推薦で決定することを選定としているとの発言があった。

河野副会長から、評議員選定委員会の意見を尊重するとの発言があった。

浪川監事から、評議員に評議員定数の議論について説明する時間と準備が必要であるとの発言があった。

庄司理事から、JSAF ホームページにサマリーを掲載するとの発言があった。

山下理事から、3月評議員会では定款を承認していただくことで、選定方法は含まれないとの発言があった。

高木監事から、公益財団として評議員選定方法を方向付けることは大切である。今理事会では、骨格となる評議員定数を決定しないと細部は決まらないとの発言があった。

庄司理事から、評議員定数を 37～49 名で承認していただき、3月評議員会へ提案する。具体的な運営要綱も同時に議論が必要であることから、理事会のご意見をいただきたい。また、定款案の他の条文についても質問・意見をいただきたいとの発言があった。

河野副会長から、評議員定数検討(ケース 3)競技人口比配分の 49 名案では、関西水域等が減少する、また 49 名で固定することで問題ないのかとの発言があった。

高木監事から、補欠をなくすことで解消できるとの発言があった。

河野副会長から、51 名としておくと発言があった。

前田専務理事から、37～51 名で公益財団法人日本セーリング連盟定款(案)を決定し、評議員会へ提案するとの発言があった。

承認された。

6) 特別加盟団体加盟入会申請

前田専務理事から資料に基づき、日本 IRC オーナーズ協会の特別加盟団体申請について説明があった。

日本 IRC オーナーズ協会は、国際機関 RORC の IRC レーティングを取得している艇のオーナーの組織である。特別加盟申請にあたっては外洋艇推進グループの総意でもあり、直近 3 期決算報告書についても整理した。特別加盟団体申請条件は満たされているとの発言があった。

承認された。

7) 規程の変更

黒川レース委員長から資料に基づき、JSAF 運営規則の変更について説明があった。

JSAF 運営規則の変更理由は、①「第 1 章ディンギー系全日本選手権大会」と「第 2 章外洋艇全日本選手権(ジャパンカップ)及び全日本レベルのレース」で整合性がないこと、②外洋艇全日本選手権(ジャパンカップ)で、外洋レースの現状を反映されていないことからである。詳細は、JSAF 運営規則新旧対象表を配布した。第 1 章については、

第 2 章との整合性を図るとともに、現在行われていない帆走指示書の審査を削除するなど、現状にあった規則に修正したとの発言があった。

児玉常務理事から、運営規則第 2 章の変更について詳細な説明があった。現行の規則は、公示・帆走指示書で記載すべき事項が重複している。基本的には、国内レース規定にもかかわらず、非常に厳しい規則であり、実際に運用も守られていない状態で外洋艇全日本選手権(ジャパンカップ)が開催されている。そこで、外洋レースの実態に沿った規則に変更する。主には、①第 1 章との整合性を図る。②重複を避けてシンプルにする。③主催団体の地域事情を配慮する。④RRS 及び ERS の確認、⑤レースマネジメントマニュアル・寄付行為第 3・4 条の確認の作業のもと、外洋艇関係委員会で検討して条文を半分にしたとの発言があった。

山田理事から、第 1 章第 4 条に「和歌山インターナショナル」を加えていただきたいとの発言があった。

吉田理事から、第 1 章第 6 条「全日本選手権大会の取消し」は第 2 章に規定されていないことから、将来的には第 1 章と第 2 章はまとめるべきであるとの発言があった。

黒川レース委員長から、現在は移行期間で将来的に一本化するとの回答があった。

鈴木理事から、RRS に記載されていない JSAF 運営規則は、ルールであるのかと質問があった。

黒川レース委員長から、RRS には含まれない主催団体の規則である。RRS は国内規則には縛られないとの回答があった。

大村ルール副委員長から、レースに必要なならば帆走指示書に記載することが必要になるとの発言があった。

鈴木理事から、RRS 冊子の JSAF 規則内に記載できないか検討いただきたいとの発言があった。

修正することで、承認された。

8) 平成 22 年度定期表彰 (追加審議)

庄司理事から資料に基づき、平成 22 年度定期表彰の追加審議について説明があった。

前回理事会において、平成 22 年度定期表彰受賞候補者として、間寛平氏を表彰することを意思決定している。詳細は、①表彰内容は功労賞とする。②表彰時期は 3 月 3 日国際ボートショーとする。③メディア対応を広報委員会と調整する。今後の検討課題として、外洋表彰基準の再検討、表彰基準外のケースにも対応できるように「会長特別賞」を設定する、団体やチームへの表彰を可能とするように検討が必要であるとの発言があった。

承認された。

<協議事項>

1) 規程の改定 (IJ/IU 推薦基準)

大村ルール副委員長から資料に基づき、「IJ/IU の推薦候補選定等に関する基準」の改定について提案があった。IJ 候補者として JSAF が複数回にわたって推薦した IJ 申請者が、結果として IJ として認定されない事態が生じている。現行の IJ/IU 推薦基準には、良識・公正さ・指導力が含まれるものの、スキル等に関する資質が含まれておらず、ISAF による IJ/IU 認定の基準との間に差がある。今回の改訂骨子は、①ISAF による IJ/IU 認定基準に整合させる。②2 回目の推薦にあたっては、認定見送りの理由と改善の説明を推薦希望者に求める。③委員会の招集ルール委員長とする。④IU 申請の推薦要件となる国内大会を具体的に示すとの発言があった。

<報告事項>

1) 2016 年五輪の 470 艇種問題について

戸張国際委員長から、2016 年リオデジャネイロ五輪の 470 艇種問題について報告があった。IOC から 10 種目の中に二人乗り (スピネーカー) で 470 混合が提案されたことを受けて、体格的に不利になる日本を始めとするアジアは、470 級男子及び 470 級女子の独立種目としてオリンピックに残すことを要望する運動をする。国際委員会、河野副会長、オリンピック特別委員会、日本 470 協会、日本から 2~3 のサブミッションを提案する。5 月 ISAF ミッドイヤーミーティングで 470 混合を阻止すべく、国際 470 協会会長ともコンタクトしているとの発言があった。

2) 最高審判委員会報告

大村ルール副委員長から資料に基づき、上告に対する最高審判委員会の裁決について報告があった。

平成 22 年 10 月 25 日に受理した「関西学生ヨット選手権大会」におけるスナイプ級 30 号艇と 41 号艇との審問に対する 30 号艇からの上告 (上告 2010-01)、およびスナイプ級 29 号艇と 41 号艇の審問の判決に対する 29 号艇からの上告 (上告 2010-02) について、最高審判委員会で審議した。上告 2010-01 は裁決に至った。上告 2010-02 は、プロテスト委員会の認定事実は不十分であると判断したため、追加の事実認定を行うことを要請したとの発言があった。

3) 共同主催・公認・後援願いについて

黒川レース委員長から資料に基づき、共同主催・公認・後援願いについて報告があ

った。1大会公認、1大会後援について認可したとの発言があった。

4) 平成 22 年度新年会報告

倭レディース委員長から資料に基づき、JSAF 新年会について報告があった。

平成 23 年 1 月 22 日、帝国ホテル東京において JSAF 新年会・第 16 回アジア大会報告会が開催された。収入 1,070,000 円、支出 955,055 円で差引収支差額 114,945 円との発言があった。

5) JOC コーチについて

山田オリンピック特別委員会委員長から、JOC コーチについて報告があった。

①オリンピック特別委員会では、JOC コーチの増員を要求している。昨年度は公募したが、本年度は JOC から決定した場合、人選は河野次期会長、西岡副会長及びオリンピック特別委員会で一任していただきたい。②2011 年に第 26 回夏季ユニバーシアード大会が中国で 6 年ぶりに開催される。セーリングは 24 名（選手 18 名・役員 6 名）選手枠をいただき、次回 4 月理事会で選手団を決定するとの発言があった。

6) 平成 22 年度 1 月予算管理月報について

斎藤財政委員長から資料に基づき、平成 22 年度 1 月末予算管理月報について報告があった。

7) 平成 22 年度 2 月 15 日付けメンバー登録数について

松原理事から資料に基づき、平成 22 年度 2 月 15 日付メンバー登録数について報告があった。総合計 9,912 名との発言があった。

8) 平成 22 年度臨時（第 4 回）理事会議事録（案）

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度臨時（第 4 回）理事会議事録（案）について報告があった。

9) その他

①前田専務理事から、平成 23 年度 JSAF 行事予定について報告があった。

②前田専務理事から、3 月 3 日(水)～6 日(日)まで、国際ボートショーがパシフィコ横浜で開催される。3 月 3 日に間寛平氏が 1 日館長となる予定で、JSAF 表彰が対応可能か調整するとの発言があった。

③前田専務理事から、故・秋田名誉会長の葬儀について報告があった。

④児玉常務理事からリーフレットに基づき、JSAF メンバー登録及び外洋艇登録（セーランナンバー）の募集について報告があった。

- ⑤児玉常務理事から、モバイルキャンペーン終了について報告があった。
- ⑥前田専務理事から、3月12日に全国代表者会議、3月13日に平成22年度第2回評議員会を開催するとの発言があった。

平成22年度通常(第2回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成22年 2月 19日

議 長 会 長 山 崎 達 光

議事録署名人 理 事 倭 千 鶴 子

議事録署名人 理 事 小 山 利 男